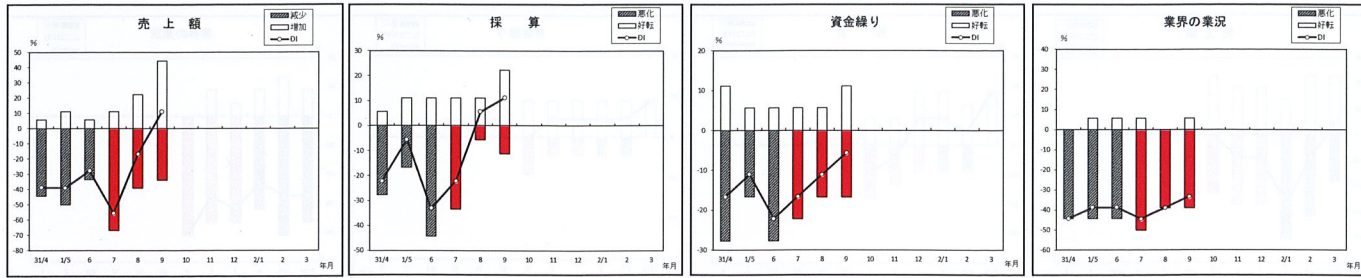


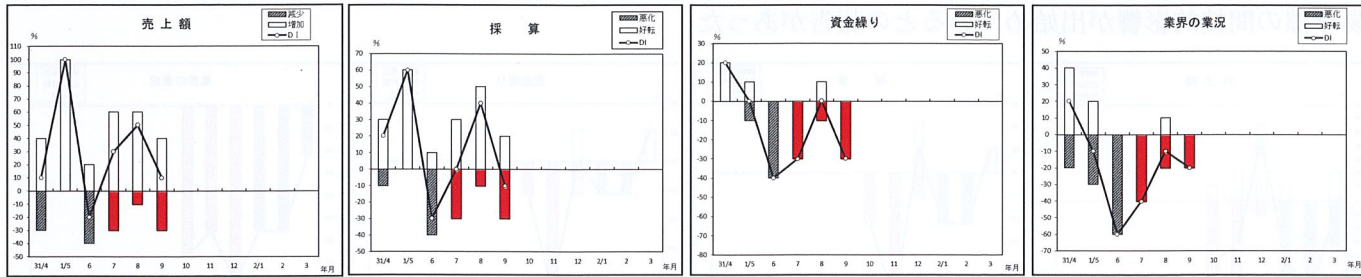
## 商業 駆け込み需要で好調もキャッシュレス対応に差が見られる商業

商業は9月に入り全ての項目が5～15ポイント改善した。前四半期との比較でも、1～15ポイント改善を示した。経営支援員からは、一部商品(生活必需品)に消費税増税前の買い溜めの動きが見られる一方で、軽減税率やキャッシュレスに関心の高さが窺えるも、既に導入を見送る店舗もあり、対応に差が見られるとの報告があった。



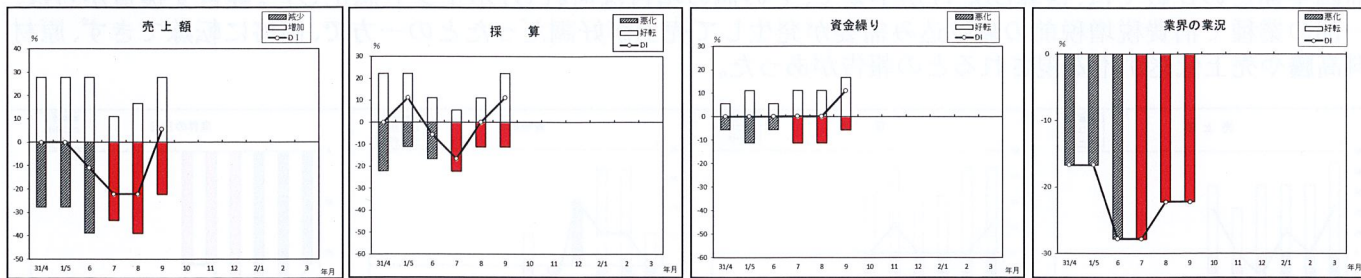
## 観光業 好天候の恩恵を受け業界波及図るも今後予断を許さない観光業

観光業は9月に入り、全ての項目において10～30ポイントと大きく悪化した。前四半期との比較では、売上DIは不変。その他の項目全て7ポイント悪化を示した。経営支援員からは、台風の影響でキャンセルは少なからずあったが、昨年同様、好天候に恵まれ売上が伸びたとの報告が多い。また、冬の繁忙期に向けたインバウンドやプラン造成の動きが活発化しているとの報告もあった。



## サービス業(飲食店) 増税に伴うレジ対応等に追われ増税後の不安高まるサービス業(飲食店)

サービス業は9月に入り、業況DIこそ不変であったが他の項目は全て5～11ポイント改善した。前四半期との比較では、資金繰りDIが4ポイント改善したのに対し、他の項目は何れも悪化を示した。経営支援員からは、昨年同様、天候による恩恵を受け売上増に繋がったとの報告がある一方で、軽減税率に伴うレジ対応、消費税増税に伴うメニュー表示変更、キャッシュレス対応に追われているとの報告があった。

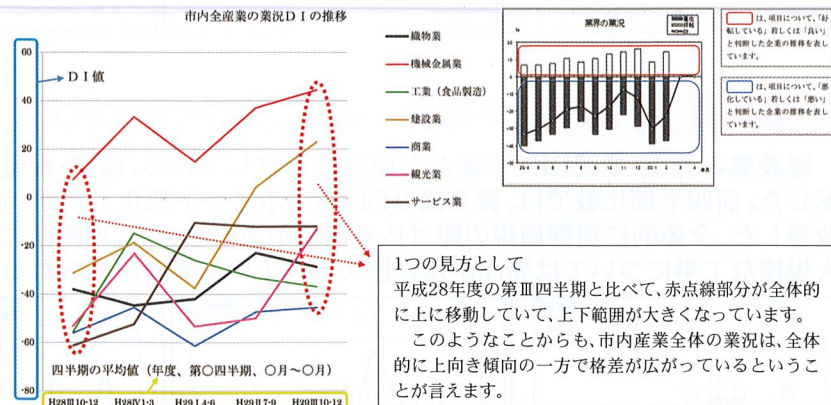


**DI値とは** DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。

もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER(全米経済研究所)でウェスリー・C・ミッチェル(Wesley Clair Mitchell)らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加(プラス)/減少(マイナス)などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。

### グラフの見方



1つの見方として  
平成28年度の第Ⅲ四半期と比べて、赤点線部分が全体的に上に移動して、上下範囲が大きくなっています。  
このようなことから、市内産業全体の業況は、全体的に上向き傾向の一方で格差が広がっているということが言えます。

※ご注意して頂かなければならない点は、これらのDI値が「絶対」若しくは「正しい」というモノではありません。あくまでも感覚的な指標であり、参考数値(材料)の1つに過ぎないことをご承知下さい。

経営発達支援計画  
令和元年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

# 個社ニーズ・事業承継等調査レポート 地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(令和元年7月～令和元年9月)

京丹後市商工会

# 個社ニーズ・事業承継等調査レポート

—人材不足動向調査—

令和元年11月1日

## <調査概要>

【調査目的】個社の労働環境を把握すると共に、地域経済動向調査を併せて実施することで、事業者との関わり頻度を増やし、支援ニーズに沿った施策活用提案など支援の依頼機会の創出を目的として実施するものです。

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件

【調査期間】2019年7月～9月

【調査方法】当商工会経営支援員の巡回ヒアリングによる調査

【図1】のグラフ結果の通り、約半数の事業者が人材不足との回答を得た。その他の意見の大半は、人材が不要とのことであったが、今後、全業種に共通して人材不足が加速する見込みであり、必然的に「確保中・確保したい」の割合が増加していく傾向にある。

次に、どのような人材を確保したいかを調査した結果が【図2】である。第1位は有資格・技術者で、次に、特に条件を設けていない、新卒者の順となった。特徴の1つとして、生産産地ならではの即戦力を求めていることが推測でき、当該対象事業者である小規模事業者等は、外国人労働者のニーズは意外に少ないことがわかった。その他の意見には、外注先の若い有能な人材、若くて意欲のある若者、コミュニケーション能力が高い人、やる気・熱意がある人などが続き、要望として、京丹後市に派遣の窓口があると聞いているが、そこで人のマッチングができないか、保育料の補助・子供を夜間に預ける仕組みがあれば、女性が働きやすくなるのではとの意見があった。

最後に、上記のような結果を踏まえ、当会に求めている支援は、【1位 補助金等の事業計画策定支援】【2位 人材の紹介(マッチング)】【3位 採用・ノウハウの支援】という結果となった。逆に、人材雇用に関するセミナー研修や企業マッチング(M&A)にはニーズが少ないことがわかった。その他には、企業PR、ものづくり体験など複数機関及び地元小中学校、高校と連携した事業や、企業間の若手等の交流などの要望が見られた。

京丹後市商工会では、今後このような調査結果を踏まえ、持続的な経営戦略事業などを加味した面的支援企画を伴走して支援(提案)していく必要があると考える。

図1:人材確保についての現況

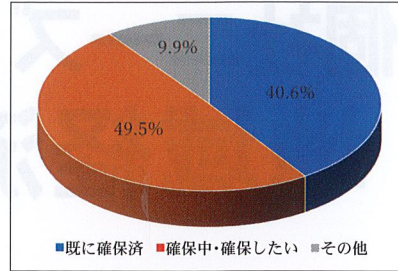


図2:獲得人材ニーズについて

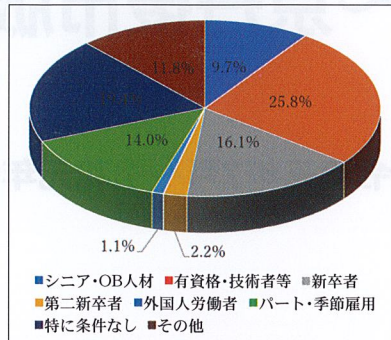
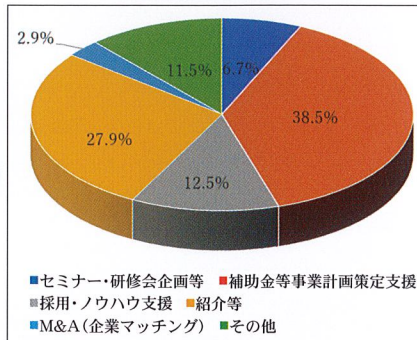
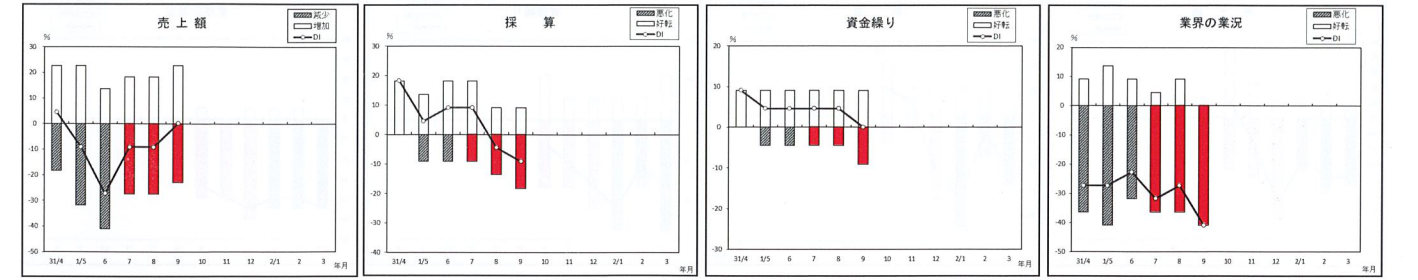


図3:人材獲得に関する当会への支援ニーズ



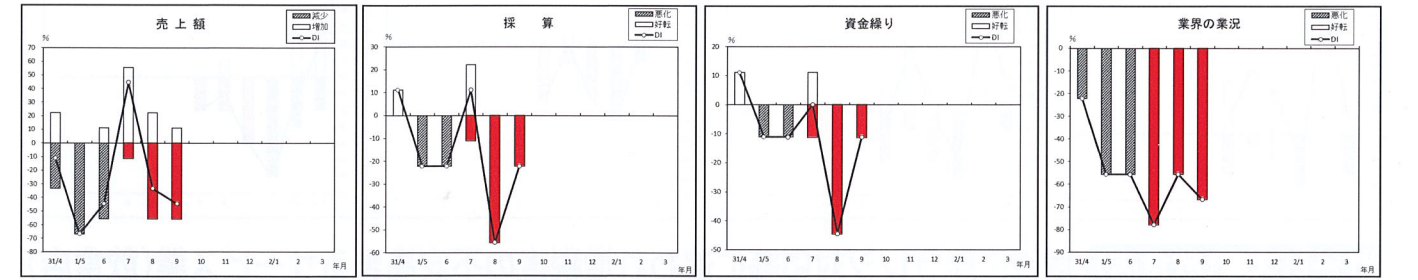
# 織物業 消費税増税による売上増もマイナス要因多く業況悪化感広がる織物業

織物業の売上DIは9月に入り9ポイント程度改善したが、他の項目は悪化した。特に採算・業況DIは大きく悪化した。前四半期との比較でも採算・業況DIは10ポイント以上悪化の結果となった。経営支援員からは、消費税増税が受注単価を見直す機会となり売上増に繋がったが、原材料単価も安定せず、織手不足も重なって採算確保が難しいとの声が多くあった。



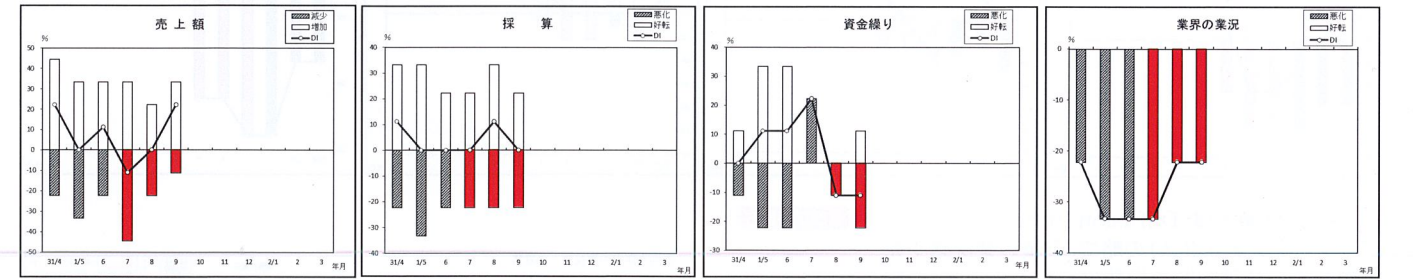
# 機械金属業 調査開始(H28)以来、最も低い水準となった機械金属業

機械金属業は9月に入り、採算・資金繰りDIは10ポイント以上大きく改善を示したが、売上・業況DIは依然悪化した。前四半期との比較では、売上DIは大きく改善するも、他の項目は悪化を示した。売上DIは前四半期、業況DIは今期に調査を始めて以来、最低のDI値となった。経営支援員からは、慢性化する人手不足と米中・日韓貿易摩擦の間接的影響が出始めているとの報告があった。



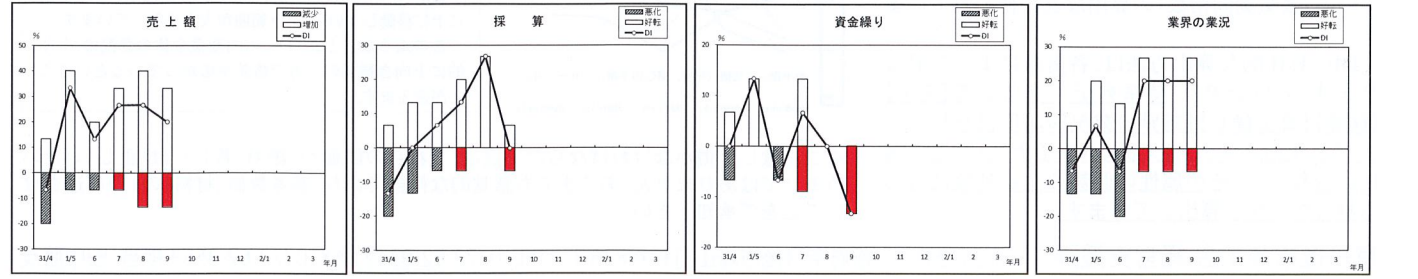
# 工業(食品製造) 一部駆け込み需要が好調も先行き不安が高まる工業(食品製造)

工業(食品製造)は9月に入り、売上DIは2期連続10ポイント以上大きく改善したがその他の項目はほぼ不変。前四半期との比較では、採算DIだけが不変で、その他の項目は何れも7ポイント悪化した。経営支援員からは、一部の業種で消費税増税前の駆け込み需要が発生して売上が好調だったとの一方で、価格に転嫁できず、原材料高騰や売上低迷が不安視されるとの報告があった。



# 建設業 駆け込み需要と復旧工事が活況も人手不足や資材高に懸念残る建設業

建設業の売上・業況DIは不変だが堅調に推移している。採算・資金繰りDIについては、9月に入り一転悪化に転じた。前四半期比較では、資金繰りDIこそ4ポイント悪化した。他の項目については9～18ポイント大きく改善した。全体的に消費税増税の駆け込み需要があるものの、増税前に完了できる小規模な工事への受注が伸び、大規模な工事については発注が差し控えられている傾向が見られる。



# 地域経済動向調査レポート—京丹後市版—

～消費税増税前の駆け込み需要があったものの、足踏み状態から抜け出せない市内小規模企業～

令和元年11月1日

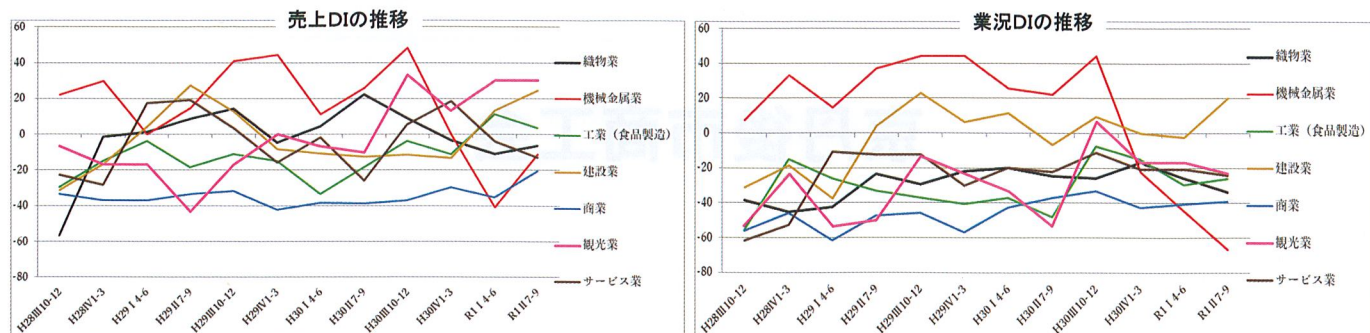
## <調査概要>

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2019年7月～9月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

## <産業全体> 増税前の駆け込み需要があったものの足踏み状態から抜け出せない市内小規模企業

7月～9月の小規模事業者経済動向調査は、売上・採算DI(景気動向指数・前四半期対比)は1～5ポイントと小幅に改善したが、資金繰り・業況DIは悪化した。消費税増税前の期とあって、一部の業種・商品で駆け込み需要が発生しているとの報告があった一方で、台風などの天候不順による機会損失が発生したとの報告も多く、また軽減税率制度導入準備やキャッシュレス対応に追われたとの声も多かった。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの